

「一枚ポートフォリオ」の活用

どんな授業がしてみたいか

今、どんな授業がしてみたいか、と問われれば、どのように答えるでしょうか。私は以前、次のように答えたことがあります。

生徒が自分の読解力と表現力の高まりを実感できるような授業

言い換えれば、生徒が自己の変容を自覚できるような授業となります。従来から、国語科の授業の中で、読解力を高めることをねらった授業や表現力を高めることを目指した授業は、数限りなく行われてきました。その実践の数は枚挙にいとまがありません。

しかし、授業を通して、生徒自身が自己の読解力や表現力の高まりをどの程度自覚できていたでしょうか。生徒一人一人が、自己の変容を自覚し、自信をもち、それが次の学習への意欲付けとなっていたでしょうか。

学習はしていますが、何がどのくらい変わったのか、分かるようになったのか、できるようになったのかが分かりません。授業はしても生徒にどのくらいの力がついたのかが分かりません。このようなことが往々にしてあったのではないのでしょうか。

上記のような状態では、真の国語力がつくのかどうか、国語力が高まるのかどうか、甚だ心許ないと言えます。読解力と表現力とは、国語の学力の中でも、中核を担うものです。この2つなくして、国語の学力は語れません。

「一枚ポートフォリオ」の活用

これは、堀哲夫氏らによる理科での理論と実践を国語科に応用したものです。「一枚ポートフォリオ」とは、以下のようなものです。

- ① 生徒に学ぶ喜びや学ぶことの大切さを感じ取ってもらうことができるような評価
- ② 生徒が学習過程で記録したものを通して、教師の授業評価を追究できるような評価
- ③ ①と②を生徒が書いた一枚のシートの中で実現可能なようにした評価
- ④ 最小限の情報で最大限の効果を上げようとする評価

生徒を変えるのは、生徒自身にほかなりません。生徒が学習によって自分自身の変容を実感できる時、学ぶことの重要性を自覚することができます。

これまで、授業評価はビデオに録画した内容を分析するなどの方法がとられてきました。こうした方法は、分析に時間がかかります。しかも、一人ではなかなか行うことができません。ところが、この方法であれば、生徒が書いたものを通して、授業が適切であったかどうかを判断できます。しかも、簡便です。

この一枚のシートを「一枚ポートフォリオ」と呼ぶことにします。これを用いて、生徒は自分自身の学習内容を振り返ることにより、学習の意味を感じ取ることができます。授業者は、書かれた内容を通して、授業の適切性を評価し、授業の軌道修正を図っていくという形成的評価が可能となります。

教育現場は、日々の業務に忙殺されています。手間暇かけてじっくり行うことの大切さは分かっていても、実際には時間をかけて評価を行うことが不可能に近い状態が続いています。教育実践において極めて重要な視点の一つは、単純で活用しやすいことです。授業者が最も望む最小限の情報を効率的に得て、それを最大限に活用するということです。この方法であれば、一枚のシートを活用して行うため、情報が多すぎたり、また多彩なものが入りすぎたりすることはありません。